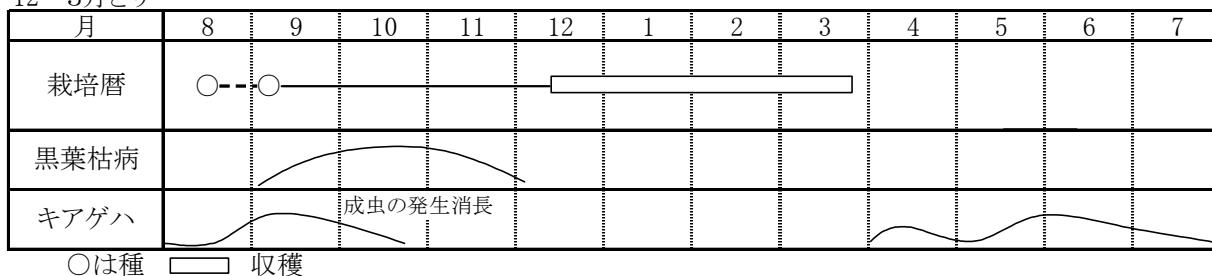


(29) ニンジン

1 主要な作型及び病害虫の発病・加害時期

12~3月どり



2 主要病害虫別防除方法

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
白綱病 (<i>Sclerotium</i>)	①排水を良好にする。 ②酸性土壤では消石灰を施用する。 ③発病株は見つけ次第除去しする。 ④収穫残さは集めて適切に処分する。 菌核を形成している場合は、地表の土壤とともに取り除き、土中深く埋める。	①土壤消毒を行う（土壤病害虫の防除法の項参照）。 (例) ダゾメット粉粒剤（ガスターD微粒剤、バスアミド微粒剤）
【参考事項】	高温時に発生しやすい。 酸性土壤で発生しやすい。 ニンジン以外にも多くの作物に寄生する。 菌核は土壤中で5~6年生存する。	
根腐病 (<i>Rhizoctonia</i>)	①連作を避ける。特に前年多発したほ場では連作しない。 ②常発地では3年以上の輪作を行う。ただし、ゴボウ、ジャガイモ、ヤマノイモ、イチゴ、レタス、ホウレンソウなどは輪作作物から除外した方がよい。 ③低湿地での作付けは避け、ほ場の排水をよくする。 ④発病株を除去する。 ⑤収穫が遅れると被害が増大するので、適期に収穫する。特に夏どりの作型では注意する。	①全面土壤混和する。 (例) ダゾメット粉粒剤（ガスターD微粒剤、バスアミド微粒剤） トルクロホスメチル粉剤（リゾレックス粉剤）
【参考事項】	春播き夏どりの作型に発生が多い。	
黒葉枯病 (<i>Alternaria</i>)	①連作を避け、他作物との3年以上の輪作をする。 ②無病種子を用いる。 ③低湿地での作付けを避け、ほ場の排水を良好にする。 ④肥切れさせない。 ⑤収穫後に茎葉を集めて処分する。	①種子消毒をする（野菜種子の消毒の項参照）。 (例) イプロジオン水和剤（ロブラー水和剤） イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤（ベルクート水和剤） TPN水和剤（ダコニール1000） ②発病初期から農薬を散布する。 (例) イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤（ベルクート水和剤） 銅水和剤（Zボルドー、ICボルドー-66D、コサイド3000） ピリベンカルブ水和剤（ファンタジスタ顆粒水和剤） ペンチオピラド水和剤（アフェットフロアブル） ボスカリド水和剤（カンタスドライフロアブル） ポリオキシン水和剤（ポリオキシンAL水和剤） 有機銅水和剤（キノンドーフロアブル） TPN水和剤（ダコニール1000）
【参考事項】	高温時に多発し、発芽不良の原因となる。 病原菌は被害植物に付着して長く生存し、また、種子にも付着して種子伝染する。	

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
キアゲハ	①幼虫を見つけたら捕殺する。 (例)	①発生初期から農薬を散布する。 (例) アセタミプリド水溶剤 (モスピラン顆粒水溶剤) クロルフェナピル水和剤 (コテツフロアブル) シアントラニリプロール水和剤 (ベネビアOD) マラソン乳剤 (マラソン乳剤、マラソン乳剤50)
	【参考事項】 5月、7月及び秋口に発生が多い。セルリー、パセリも食害する。 ①対抗植物と輪作するか前作に対抗植物を栽培する。 ネコブセンチュウにはギニアグラス、クロタラリア スペクタビリス、マリーゴールドなどが有効。 ネグサレセンチュウにはハブソウ、マリーゴールド、ルドベキアなどがある。 ②太陽熱消毒を行う（土壤病害虫の防除法の項参照）。 ③有機物を施用する。	①は種前に土壤くん蒸する。 (例) クロルピクリンくん蒸剤 (クロールピクリンなど) D-D剤 (D-D、DC油剤、テロン) ②は種前に粒剤を土壤混和する。 (例) イミシアホス粒剤 (ネマキック粒剤) オキサミル粒剤 (バイデートL粒剤、バイデートMK) フルオピラム粒剤 (ネマクリーン粒剤、ピーラム粒剤) ホスチアゼート粒剤 (ネマトリンエース粒剤)